

報告

## 映画「福島は語る」観ました!?



●東日本大震災から8年になる今、2020年の東京オリンピックを前に、フクシマは「終わったこと」として忘れ去られようとしている。しかし、原発事故による放射能汚染で故郷や住処を追われ、生業を失い、家族離散を強いられ、将来への希望を奪われた十数万人の被災者たちの傷は癒えることなく、疼（うず）き続けている。その被災者たちが心の底に鬱積（うっせき）した深い思いを吐露した14人の証言。●上映時間2時間50分はアツという間だった。そこには、8年経った今だからみえてきた問題が一杯あった。涙するだけで終わらせてはいけないと思った。「終わっていないフクシマ」をみんなで支援し続けていきましょう。



ココマルシアター吉祥寺にて（5/5 渡辺）

監督・撮影・編集：土井敏邦さん（写真）はパレスチナ紛争を撮り続けてきたが、2011年3月11日からフクシマを撮る。そのわけはパレスチナとフクシマに共通するものを見たからだという。それは、「故郷」と「尊厳」だ。故郷を追われる、故郷に帰りたくても帰れない、故郷を語れない、加えて、人としての尊厳は保たれているのか！と静かに語る。カメラ越しに質問や相づちはしても結論を求めない監督の姿勢に被災者は救われたのだろう。（上映後のトーク感想）

## 障害者・高齢者を受け入れ／地震避難所の45日

報告 熊本学園大学の取り組み展示&講演会

新聞から

■2016年4月の熊本地震では震度7を2回記録。熊本学園大学は集まってくる住民に校舎を開放し、職員や学生たちが独自の避難所を運営したという。その45日間の記録を映像とともに見た時、あらためて、「人権を守る」ことの現実を教えられた。

■車いすが3日間座りっぱなしの人や避難所には障害者トイレがない等の理由で福祉学部のある熊本学園大学にきた人々を健常者と同様に受け入れ、5月28日に閉鎖するまで24時間態勢で見守ったという。

### 【講演会】

#### 人権を保障するインクルーシブな避難所とは

熊本学園大学社会福祉学部教授・研究員による活動報告。過去の優れた事例に学ぶ意義は大きいと思い、上記講演会に参加した。インクルーシブな（包括的な）避難所とはいかなるものなのか。東京でも起こりうる大規模災害時、直面することになる災害時の人権問題についてたくさんのヒントをいただいた有効な講演会だった。

定員80人の会場は押し寄せた参加者のすべてを受け入れ超満員。まさにインクルーシブだった。



▲車いすが5、6台みえます。障害者ら約60人を含む被災者750人を受け入れた。



▲震災後、2日後から炊き出しがはじまった。初めて薪から火をおこす学生たち。

**東村山市議会の女性比率48% 一都内46区市町村議選**  
4月の統一地方選では、都内46区市町村議選で当選した女性割合は4年前の前回選挙より約3ポイント高い30%だった。  
自治体で最も高いのは東村山市で、当選25人のうち女性は48%の12人。次いで武蔵野市46%（12人）、狛江市46%（10人）、清瀬市45%（10人）、豊島区42%（15人）など。一方、神津島と小笠原の2村は女性当選者がいなかった。  
ちなみに西東京市は28人中女性市議7人（25%）という低率。何とか増やしたいなあと思えました。（参考：朝日新聞「2019年4月23日」）